



(別添)

2026年10月29日

NITE (ナイト)

独立行政法人製品評価技術基盤機構

中国支所

News Release

適切な離隔距離、知っていますか？ ～暖房器具は可燃物との距離を確保して火災を防ぎましょう～ —中国5県版—

■ 暖房器具の事故を防ぐポイント

➤ 「可燃物の接触」に要注意！

- ✓ 洗濯物や布団、衣類、クッションなどの可燃物を暖房器具の近くに置かない。
取扱説明書等に記載されている壁や可燃物との距離が十分に確保されているか確認する。
- ✓ 就寝時や外出時は、必ず電源を切る（火を消す）。

➤ “電気” 暖房器具の点検ポイント

- ✓ 製品がリコール対象製品ではないかを確認する。
- ✓ 電源コードや電源プラグが破損・変形していないか、たこ足配線になっていないかを確認する。

➤ “石油” 暖房器具の点検ポイント

- ✓ 置き台にほこり等があれば取り除く。
- ✓ 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。
- ✓ 給油時はカートリッジタンクのふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

1. 暖房器具の事故発生状況

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報では、暖房器具の事故は、中国地方5県（鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県）では2021年から2025年までの5年間に29件発生しており、発生状況は以下のとおりとなっています。

(1) 中国5県の年別 事故発生件数

表1に暖房器具の事故における「年別・県別」事故発生件数を示します。

表1 「年別・県別」暖房器具の事故発生件数

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合 計
2021年	1				1	2
2022年	1	1	5	4	1	12
2023年			3	2	1	6
2024年				2	1	3
2025年			2	3	1	6
合 計	2	1	10	11	5	29

(2) 中国 5 県の被害状況別 事故発生件数

表 2 に暖房器具の事故における「被害状況別・県別」事故発生件数を示します。

表 2 「被害状況別・県別」暖房器具の事故発生件数^{*1}

被害状況 ^{※4}		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合 計
人的被害	死 亡			4	3	1	8
	重 傷		1		1		2
	軽 傷				2		2
物的被害	拡大被害	1		6	4	4	15
	製品破損	1			1		2
被 害 な し・不明							
合 計		2	1	10	11	5	29

(※1) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(3) 中国 5 県の事故原因区分別 事故発生件数

表 3 に暖房器具の事故における「事故原因区分別・県別」事故発生件数を示します。

表 3 「事故原因区分別・県別」暖房器具の事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合 計
誤使用・不注意による事故			5	2	1	8
製品に起因しない事故		1		3	1	5
製品起因	2			2		4
原因不明			3	1	3	7
調査中			2	3		5
合 計	2	1	10	11	5	29

(4) 中国 5 県の使用者年齢別 事故発生件数

表 4 に暖房器具の事故における「使用者年齢別・県別」事故発生件数を示します。

表 4 「使用者年齢別・県別」暖房器具の事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合 計
20～40代				3		3
50代			1		1	2
60代	1		1			2
70代				2	2	4
80代		1	3	3	1	8
90代			2	3		5
不明	1		3		1	5
合 計	2	1	10	11	5	29

2. 事故事例について

中国5県で発生した、暖房器具の事故事例を示します。

○事故事例1 可燃物の接触による出火【電気暖房器具】

2025 年 2 月（岡山県、80 歳代男性、死亡）

【事故の内容】

建物を全焼する火災が発生し、現場に電気ストーブがあった。

【事故の原因】

電気ストーブに出火に至る異常は認められなかったこと、ヒーターガード部に溶融物が付着していたことから、使用中にヒーターガード部に可燃物が接触等して出火したものと推定される。

○事故事例2 ガソリンの誤給油による出火【石油暖房器具】

2022 年 1 月（岡山県、80 歳代女性、拡大被害）

【事故の内容】

石油ファンヒーターを使用中、建物を全焼する火災が発生した。

【事故の原因】

石油ファンヒーター油受皿の残さからガソリンが検出されたことから、ガソリンを誤給油したため、異常燃焼が生じて出火したものと推定される。

3. 製品事故の実験映像について

製品事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

（本件に関するお問い合わせ先）

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 6-30 広島合同庁舎 3号館

独立行政法人製品評価技術基盤機構 中国支所

担当者：下川、竹野

電 話：082-211-0411

以上